

なぜ、人は壁に描くのか



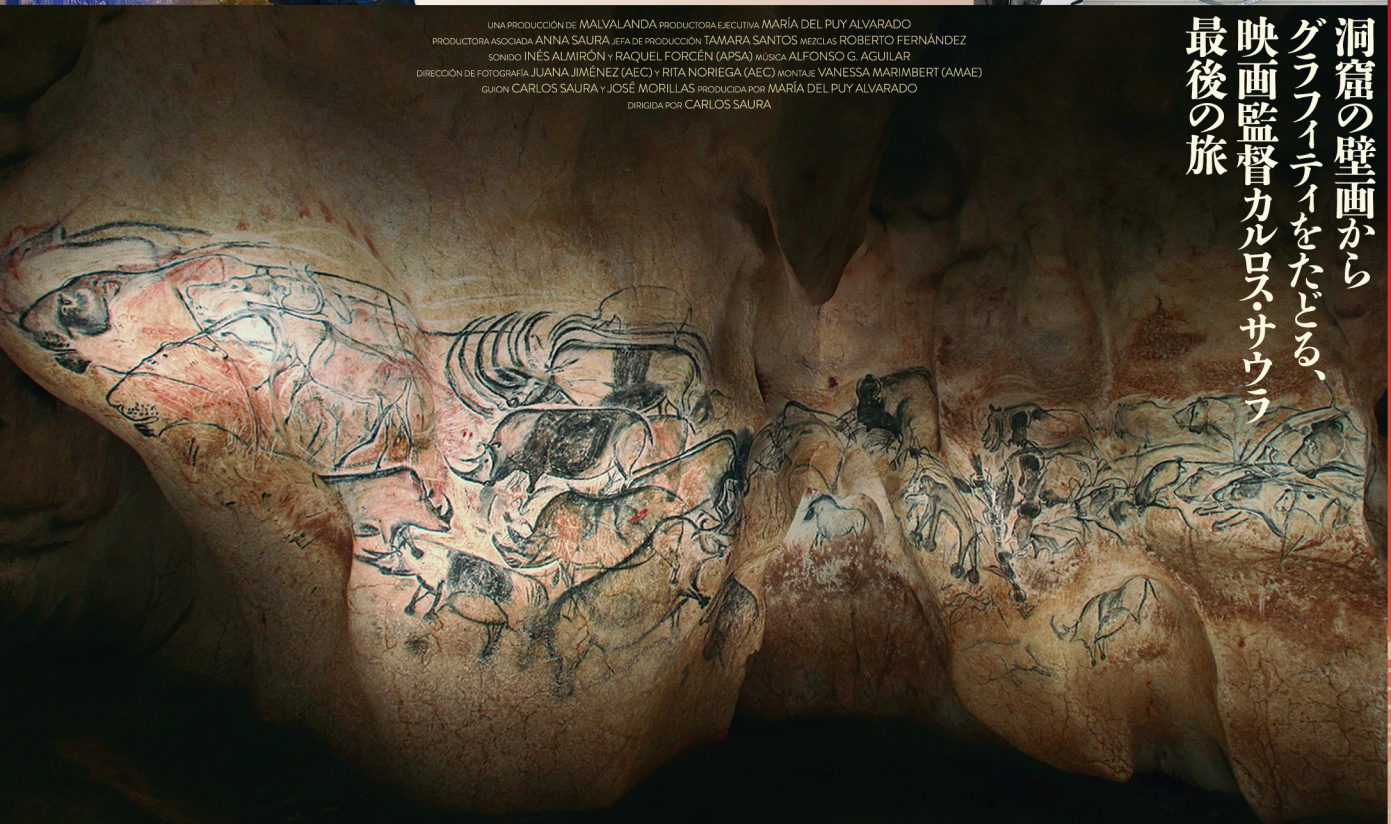
Un documental de
CARLOS SAURA

カルロス・サウラ監督作品

壁は語る

WALLS CAN TALK

監督:カルロス・サウラ 撮影:フアナ・ヒメネス, リタ・ノリエガ
出演:カルロス・サウラ, ミケル・バルセロ, SUSO33, ZETA, MUSA71他
2022年 | スペイン | DCP | 75分 | カラー | Dolby Digital
配給 | Action Inc. | 配給協力 | インターフィルム



洞窟の壁画から
グラフィティをたどる、
映画監督カルロス・サウラ
最後の旅

UNA PRODUCCIÓN DE MALVALANDA PRODUCTORA EJECUTIVA: MARÍA DEL PUY ALVARADO
PRODUCTORA ASOCIADA: ANNA SAURA, ESPA DE PRODUCCIÓN: TAMARA SANTOS HECLAS, ROBERTO FERNÁNDEZ
SCRIBID: INÉS ALMIRÓN Y RAQUEL FORCÉN (APSA) MÚSICA: ALFONSO G. AGUILAR
DIRECCIÓN DE FOTOGRAFÍA: JUANA JIMÉNEZ (AEC) Y RITA NORIEGA (AEC) MONTAJE: VANESSA MARIMBERT (AMAE)
GUIÓN: CARLOS SAURA Y JOSÉ MORILLAS PRODUCCIÓN POR: MARÍA DEL PUY ALVARADO
DIRIGIDA POR: CARLOS SAURA



いま、幕が上がる

スペインの名匠カルロス・サウラと
撮影監督ヴィットリオ・ストラーロ、
最後のタッグ。
(「地獄の黙示録」)

CARLOS SAURA VITTORIO STORARO

情熱の王国

EL REY DE TODO EL MUNDO

カルロス・サウラ監督作品
撮影ヴィットリオ・ストラーロ

出演:アナ・デ・ラ・レグエラ, マヌエル・ガルシア・ニルフォ | 2021年 | スペイン・メキシコ | DCP | 95分 | カラー | Dolby Digital
配給 | Action Inc. | 配給協力 | インターフィルム

Ana de la REGUERA Mamen GARCÍA RULFO Damis ALCAZAR Enrique ARCE Manolo CARDONA
Introducing Isaac HERNÁNDEZ and Greta ELIZONDO
UNA PRODUCCIÓN DE PIPA FILMS & PACHA INVERSIONES PRODUCCIONES AUDIOVISUALES GUIÓN: CARLOS SAURA DIRECCIÓN: CARLOS SAURA
CON ANA DE LA REGUERA MANUEL GARCÍA RULFO GRETA ELIZONDO ISAAC HERNÁNDEZ DAMIÁN ALCAZÁR ENRIQUE ARCE MANOLO CARDONA GIOVANNA REYNAUD IZAAK ALATORRE EULÁLIA RAMÓN
PRODUCTORES: EUSEBIO PACHA BELLA GONZÁLEZ
CINEMATOGRAFÍA: VITTORIO STORARO MÚSICA: ALFONSO G. AGUILAR CARLOS RIVERA MONTAJE: VANESSA MARIMBERT
COREOGRAFÍA: EDGAR REYES



VIVA SAURA



撮った、愛した、生きた! スペインで50あまりの作品を撮り続けたカルロス・サウラ監督が、91歳で亡くなったのは、2023年2月10日。ゴヤ栄誉賞を受賞する前日のことでした。日本では、『カルメン』『血の婚礼』『フラメンコ』などと共に『カラスの飼育』や『歌姫カルメーラ』『タンゴ』『サロメ』から2016年のホタ(JOTA)のドキュメンタリー『J:ビヨンドフラメンコ』まで、数々の作品が公開されてきましたが、晩年は短編やドキュメンタリー、オペラや舞台の演出にも活動の場を広げ、メキシコで撮影された『情熱の王国』(2021)が最後の劇映画、そして、監督自らが出演するドキュメンタリー『壁は語る』(2022)が遺作となりました。

この2本のことを知ったのは2023年の3月に行ったマラガ映画祭。きっと、日本で公開されるに違いない! という思惑は外れました。やはりフラメンコ映画ではないからか? と思いつつ、せめて追悼のために公開せねば、と思ったのが、この企画の発端です。「過去を反芻するより、未来を考えることに時間を使いたい」と言い続けていた監督の最後の2本を上映することで、今一度、カルロス・サウラ監督とその生き方を再発見したい! と思います。 ——— Action Inc. (『VIVA SAURA!』『情熱の王国』『壁は語る』配給)



カルロス・サウラ
Carlos SAURA

本名:カルロス・サウラ・アタレス
生年月日:1932年1月4日 ウェスカ生まれ
没:2023年2月10日 マドリード
4歳の時にスペイン内戦(1936-39)がはじまり、共和派地域のマドリード、バルセロナ、バレンシアを転々とする。ピアニストの母と画家の兄の影響で芸術に興味を示し、高校の頃から写真、1950年から16mmで映像を撮り始める。1952年、IIEC(現在の国立映画学校)に入学。1958年からIIECで映画美術の教鞭に立つがフランコ政権の検閲に反対して1963年に解任。1958年に短編ドキュメンタリー「Cuenca」(クエンカ)でサンセバスチャン映画祭、短編部門特別賞を受賞。長編デビュー作「Los Golfos」(ならず者たち)は1960年のカンヌ映画祭に正式出品され、1965年、「La Caza」(狩り)でベ

ルリン国際映画祭金熊賞を受賞。その後、ほぼ年に1本のペースで作品を発表し、フランコ政権が終わりを迎えた翌年、ピクトル・エリセの『ミツバチのささやき』から2年後のアナ・トレントが主演した『カラスの飼育』(1976)が、カンヌ映画祭審査員グランプリ、ゴールデン・グローブ賞にもノミネート。「Mamá cumple cien años」(ママは百歳、1979)で米国アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされたことで、世界に名が知られた。作品は物語から音楽映画まで多岐に渡るが、日本で初めて劇場公開されたのは1983年、フラメンコのアントニオ・ガデスとタッグを組み、米アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされた『カルメン』。1991年からオペラや舞台の演出も手がけ、2023年「サウラによるロルカ」舞台稽古中に体調を崩し2月10日、呼吸不全で家族に見守られながら息を引き取った。最後に「充実したい人生だった」とつぶやいたという。2023年2月11日のゴヤ賞で栄誉賞を受賞。

- これまでに日本で公開されたサウラ監督作品 (制作年/日本公開年)
- 『カルメン』(1983/1983)
 - 『血の婚礼』(1981/1985)
 - 『恋は魔術師』(1986/1987)
 - 『カラスの飼育』(1975/1987)
 - 『エル・ドラド』(1988/1989)
 - 『歌姫カルメーラ』(1990/1992)
 - 『愛よりも非情』(1993/1995)
 - 『フラメンコ』(1995/1996)
 - 『タクシー』(1997/1997)
 - 『タンゴ』(1998/1999)
 - 『サロメ』(2002/2003)
 - 『イベリア 魂のフラメンコ』(2005/2006)
 - 『ドン・ジョバンニ 天才劇作家とモーツァルトの出会い』(2009/2010)
 - 『フラメンコ・フラメンコ』(2010/2010)
 - 『J:ビヨンド・フラメンコ』(2016/2016)
 - 『ブニュエル〜ソロモン王の秘宝』(2001/2020)



情熱の王国 EL REY DE TODO EL MUNDO

演出家のマヌエルが次に考えている舞台は、ミュージカルを作るためのミュージカル。構想からキャスティング、完成までを描くには、振付師が不可欠だった。彼は元妻であり女優で著名な振付師のサラに助けを求める。ただ、マヌエルが書く脚本の中で、サラは交通事故にあい車椅子になった振付師だ。引き受けたサラが主導するキャスティングでは、何とかオーディションに受かろうとする若者たちの緊張感と競争心、そこから頭角を表す男女3人が生き生きと描かれる。その中の一人、イネスは父親と地元ギャングとの対立を心配しながら稽古に励む。メキシコの数々の力強い伝統音楽がアレンジされダンスとコラボレーションする中で、悲劇と虚構と現実が交錯する物語が生まれる。メキシコ第二の都市、グアダハラで撮影が始まった2019年、サウラは87歳、ストラーロは79歳。アナ・デ・ラ・レグラ (Netflixドラマ『ビバ! メヒコ』) とマヌエル・ガルシア = ルルフォ (Netflixドラマ『リンカーン弁護士』) を主演に20代の瑞々しいダンサーたちの熱い舞台を撮りきった。

監督・脚本:カルロス・サウラ | 撮影:ヴィットリオ・ストラーロ | 音楽:アルフォンソ・G・アギラル、カルロス・リベラ | 美術:アレックス・アルベス | 振付:エドガー・レイエス | 編集:ヴァネッサ・マリンベル | 製作:エウセビオ・パチャ | 出演:アナ・デ・ラ・レグラ、マヌエル・ガルシア=ルルフォ、グレタ・エリソンド、イサーク・アラトレ、イサーク・エルナンデス、マノロ・カルドナ、ダミアン・アルカサル | 2021年 | スペイン=メキシコ | DCP | 99分 | カラー

壁は語る WALLS CAN TALK

芸術の起源についてカルロス・サウラが、監督と主演を務めながら探求するドキュメンタリー映画。先史時代の洞窟における最初のグラフィック革命から、最も前衛的な都市表現まで、創造的なキャンバスとしての「壁」と芸術との関係を描く。人類進化の偉大な思想家ファン・ルイス・アルスアガや、現代アートを代表するアーティスト、ミケル・バルセロなど、個性的な人々が同行するパーソナルな旅。自らのことは多く語らないが、芸術に関しては饒舌で、まるで子供のようになるサウラ。アルタミラ洞窟の専門家と共にスペインの遺跡や洞窟をめぐり、人類の進化と共に、人はなぜ壁に描いたのか、を探っていく。そして、その視点は現代の若い世代、グラフィティ・アーティストのZeta、グラフィティ・ライターのMusa71、アーバン・クリエイターのSuso33、アーティストのCucoにも注がれる。サウラ監督自身が彼らに迫り、壁に描くようになった経緯を問いながら、現代と太古の壁画アーティストたちが時空を超えて、繋がっていく。カルロス・サウラ監督、生涯最後の作品。

監督・出演:カルロス・サウラ | 脚本:カルロス・サウラ、ホセ・モリーリャス | 撮影:フアナ・ヒメネス、リタ・ノリエガ | 音楽:アルフォンソ・G・アギラル | 編集:ヴァネッサ・マリンベル | 製作:マリア・デル・ブイ・アルバラード | 出演:ミケル・バルセロ、ペドロ・サウラ、ホセ・ルイス・アルスアガ、ロベルト・オントニオン、Suso33、Zeta、Musa71、Cuco、アンナ・デミトロワ | 2022年 | スペイン | DCP | 75分 | カラー



www.action-inc.co.jp/saura 配給:Action Inc. | 配給協力:インターフィルム | 後援:スペイン大使館経済商務部 | 協力:インスティトゥット・セルバンテス東京

6.1 2本一挙! 怒涛のロードショー

★初日、先着150名さまに「VIVA SAURA!」特製ステッカープレゼント!

ユーロスペース EUROSPACE
渋谷・文化村前交差点左折
tel 03-3461-0211
www.eurospace.co.jp